

# 第67回奥羽大学歯学会 プログラム・予稿集

日 時：令和元年6月15日(土) 10:25～14:40

口演発表 (午前の部)	10:30～11:50
総会・評議員会	13:00～14:00
表彰式	14:00～14:10
口演発表 (午後の部)	14:10～14:40

会 場：奥羽大学歯学部附属病院棟5階臨床講義室

福島県郡山市富田町三角堂31-1

☎024-932-8931

## 奥羽大学歯学会

# お 願 い

## 会員の方へ：

1. 受付は会場入口に設けます。
2. 会場の座席は順番につめて着席して下さい。
3. 討議にはマイクをご利用下さい。

## 発表の要領：

1. 口演の演者は発表当日までに、所定の事後抄録を金 (E-mail : h-kon@den.ohu-u.ac.jp) までテキスト添付にてご送信下さい。(800字程度)

### 2. 口演発表

#### 1) 液晶プロジェクターによる口演

①単写のみです。

②事前にデータファイルの提出をお願いします。

※USBフラッシュメモリーで提出して下さい。

※データファイルはMicrosoft社のPower Pointに限ります。またファイルサイズは10Mバイト以下でお願いいたします。

③学会当日はお持ちいただいたデータの内容をこちらで用意したコンピュータで実行しますので、発表用のPCを当日ご用意していただく必要はありません。

④こちらで用意できるコンピュータのOSはWindowsおよびMac OSのみです。これらの環境下での動作確認を必ず行って下さい。

⑤学会開催前日午後6時に会場において試写を行います。データをお持ちになり学会会場にお集まり下さい。

※ソフトウェアのバージョン等によっては用意したPCでは動作しない場合も考えられますので、可能でしたらご自分のPCと電源も一緒にお持ち下さい。

⑥運営を支障なく円滑に行うため、ファイルの容量を極力抑えて下さいますようお願いいたします。

⑦利益相反 (COI) の開示：COIの有無に関わらずスライドでCOI状態を開示頂きます。全ての口演者は、2枚目のスライドに「利益相反 (COI) 開示について」の題目で報告をしてください。

#### 2) 口演時間

演者は、口演開始10分前に次演者席に着席して下さい。

口演時間は口演8分、討論2分の計10分です。

時間の経過については、下記の合図で知らせます。

7分経過 (口演終了1分前)；ベル1回

8分経過 (口演終了)；ベル2回

10分経過 (質疑終了)；ベル3回

なお、口演終了後も座長の交代まで会場内でお待ち下さい。

## 座長をなさる方へ：

1. 口演時間の厳守をお願いします。
2. 次の座長の方は5分前までに次座長席にお着き下さい。

# 第67回奥羽大学歯学会プログラム

10:25 開会の辞

大野 敬 会長

## 一口演発表(学位口演発表 4演題)一

10:30～10:50

座長 廣瀬 公治

1. SPARCが脂肪蓄積に及ぼす影響

○羽鳥智也

(奥羽大・大学院・口腔生理・生化)

研修コード1107 関連項目 (1) 1102 (2) 1101

2. 酸性細胞外pH長期曝露によるがん細胞形質の変化に関する研究

○須藤周作

(奥羽大・大学院・口腔生理・生化)

研修コード1107 関連項目 (1) 1102 (2) 0308

10:50～11:10

座長 高田 訓

3. ユガーレを指標とした歯科用コーンビームCT撮影による自然孔の観察

○船川竜生<sup>1</sup>、酒井悠輔<sup>1</sup>、河村享英<sup>2</sup>、宗形真希<sup>2</sup>、宇佐美晶信<sup>3</sup>、関根秀志<sup>1,2</sup>

(奥羽大・大学院・咬合機能修復<sup>1</sup>、奥羽大・歯・歯科補綴<sup>2</sup>、

奥羽大・大学院・口腔機能解剖<sup>3</sup>)

研修コード0202 関連項目 (1) 0603 (2) 1101

4. 摂食嚥下障がい患者における摂食時の副交感神経活動

○小松泰典<sup>1</sup>、清野晃孝<sup>1,2</sup>、杉田俊博<sup>1,2</sup>

(奥羽大・大学院・総合診療歯科<sup>1</sup>、奥羽大・歯・病院<sup>2</sup>)

研修コード0704 関連項目 (1) 1106 (2) 0899

11:10～11:20 休憩

## 一口演発表(一般口演発表 3演題)一

11:20～11:50

座長 加藤 靖正

5. 高グルコース培養歯肉上皮細胞からの炎症性サイトカイン産生と抗菌タンパクとの関連について

○廣瀬公治

(奥羽大・歯・口腔衛生)

研修コード0107 関連項目 (1) 0306 (2) 0501

6. TLR2リガンドが誘導する炎症性サイトカイン産生における新規骨吸収抑制薬MPMBPの抑制効果

○玉井利代子、清浦有祐  
(奥羽大・歯・口腔感染免疫学)

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0306

7. 口腔*Veillonella*の新規エネルギー代謝経路の探索

○眞島いづみ

(奥羽大・歯・口腔病態解析制御)

研修コード1104 関連項目 (1) 1103 (2) 0901

11:50～13:00 休憩

13:00～14:00 総会・評議員会

14:00～14:10 表彰式

### 一口演発表(一般口演発表 3演題)

14:10～14:40

座長 山森徹雄

8. 当科における耐性菌検出状況および分離菌の検出状況

○神林直大<sup>1</sup>、川崎カオル<sup>1</sup>、小嶋忠之<sup>1</sup>、金 秀樹<sup>1</sup>、高田 訓<sup>1</sup>、柴田由美子<sup>2</sup>  
(奥羽大・歯・口腔外科<sup>1</sup>、奥羽大・歯・附属病院<sup>2</sup>)

研修コード0103 関連項目 (1) 0502 (2) 1105

9. SCRPが拓いた基礎歯学研究者への道

○眞島いづみ

(奥羽大・歯・口腔病態解析制御)

研修コード0199 関連項目 (1) 1199 (2) 0399

10. 知的障がい者にユマニチュードを用いて口腔ケアを実施した1例

○泉田玉磨美<sup>1</sup>、入澤正晃<sup>2</sup>、鈴木海路<sup>2</sup>、福島和美<sup>2</sup>、山家尚仁<sup>2</sup>、北條健太郎<sup>2</sup>、  
小松泰典<sup>3</sup>、渡邊 崇<sup>2</sup>、鈴木史彦<sup>2</sup>、清野晃孝<sup>2,3</sup>、佐々木重夫<sup>2</sup>、杉田俊博<sup>2,3</sup>  
(奥羽大・歯・附属病院・看護科<sup>1</sup>、奥羽大・歯・附属病院・地域医療支援歯科<sup>2</sup>、  
奥羽大・大学院・総合診療歯科<sup>3</sup>)

研修コード0806 関連項目 (1) 0107 (2) 0905

14:40 閉会の辞

清浦有祐 副会長

# 口 演 発 表 抄 録 ( 学 位 口 演 発 表 )

10 : 30 ~ 10 : 40

## 1. SPARCが脂肪蓄積に及ぼす影響

○羽鳥智也

(奥羽大・大学院・口腔生理・生化)

細胞外分泌糖タンパク質である Secreted Protein Acidic and Rich in Cysteine (SPARC) は骨組織に豊富に含まれるオステオネクチンとして見出されたが、軟組織にも存在し、細胞外マトリックスと細胞との結合調節や細胞増殖に重要な役割を担うことが明らかになってきている。

本研究では、骨や脂肪に分化可能な多分化能を有するマウス骨髄由来の間葉系細胞を用い、細胞分化における SPARC 役割とその制御機構について解析を行った。

研修コード1107 関連項目 (1) 1102 (2) 1101

10 : 40 ~ 10 : 50

## 2. 酸性細胞外pH長期曝露によるがん細胞形質の変化に関する研究

○須藤周作

(奥羽大・大学院・口腔生理・生化)

癌細胞は自らの代謝により細胞外の pH が低下していることが知られている。これまでの研究では、酸性細胞外 pH の一過性刺激が癌細胞の転移性を促進することを明らかにされてきている。原発巣からの遠隔転移を考えた場合、癌細胞は、原発巣において酸性細胞外 pH に一過性というよりはむしろ長期に曝露されていることが想定される。そこで本研究では、酸性細胞外 pH への長期曝露における転移性形質の変化について検討した。

研修コード1107 関連項目 (1) 1102 (2) 0308

10 : 50 ~ 11 : 00

## 3. ユガーレを指標とした歯科用コーンビームCT撮影による自然孔の観察

○船川竜生<sup>1</sup>、酒井悠輔<sup>1</sup>、河村享英<sup>2</sup>、宗形真希<sup>2</sup>、宇佐美晶信<sup>3</sup>、関根秀志<sup>1,2</sup>

(奥羽大・大学院・咬合機能修復<sup>1</sup>、奥羽大・歯・歯科補綴<sup>2</sup>、  
奥羽大・大学院・口腔機能解剖<sup>3</sup>)

左右の自然孔を CBCT の撮影範囲に収めることを目的に、ユガーレを体表上の指標として自然孔の三次元的位置計測を行った。試料に本学歯学部解剖学実習用遺体49体98側(男性22体44側、女性27体54側)を用いた。

頸部で切断した試料を FH 平面が床と平行になるように撮影装置に固定し、試料の正中と左側のユガーレを中心に設定して CBCT の撮影を行った。計測には MORITA One Volume Viewer を使用した。体表上の指標にユガーレを用いて撮影した49体98側すべてにおいて、左右の自然孔が撮影範囲内に収まっていた。このことから自然孔を観察するために CBCT 撮影を行う際に、体表上の指標としてユガーレを用いることは有用であることが示唆された。

研修コード0202 関連項目 (1) 0603 (2) 1101

11：00～11：10

#### 4. 摂食嚥下障がい患者における摂食時の副交感神経活動

○小松泰典<sup>1</sup>、清野晃孝<sup>1,2</sup>、杉田俊博<sup>1,2</sup>

(奥羽大・大学院・総合診療歯科<sup>1</sup>、奥羽大・歯・病院<sup>2</sup>)

摂食嚥下障がいの一要因として、副交感神経の機能低下が考えられているが、その関係性に関する報告は見当たらない。そこで、健常者群と摂食嚥下障がい患者群における安静時と摂食時の各自律神経活動を測定し比較検討することで、実際にその障がいが自律神経の背景下にあるのかを評価した。結果、摂食嚥下障がい患者は、健常者群と比較して副交感神経活動の有意な数値低下を認めた。

研修コード0704 関連項目 (1) 1106 (2) 0899

## 口 演 発 表 抄 録 ( 一 般 口 演 発 表 )

11 : 20 ~ 11 : 30

### 5. 高グルコース培養歯肉上皮細胞からの炎症性サイトカイン産生と抗菌タンパクとの関連について

○廣瀬公治

(奥羽大・歯・口腔衛生)

歯周病と糖尿病との関連を示す基礎的知見を得るため、高血糖状態と同等のグルコース濃度で培養したヒト歯肉上皮細胞からの炎症性サイトカイン及び抗菌タンパクの産生について検討を行った。その結果、高濃度グルコース下で培養した歯肉上皮細胞では、対照群に比べLPS誘導性炎症性サイトカイン産生促進が認められた。一方、抗菌タンパクであるCAP18の産生は抑制された。この結果は、糖尿病患者における口腔内の自然免疫機能の低下を示唆するものとして興味ある。

研修コード0107 関連項目 (1) 0306 (2) 0501

11 : 30 ~ 11 : 40

### 6. TLR2リガンドが誘導する炎症性サイトカイン産生における新規骨吸収抑制薬MPMBPの抑制効果

○玉井利代子、清浦有祐

(奥羽大・歯・口腔感染免疫学)

骨吸収抑制薬であるビスフォスフォネート(BP)の中でも窒素非含有BPは抗炎症性作用を持つ。さらに近年、窒素非含有BPの一種であるエチドロネートが動脈硬化プラークを減少させる報告があった。動脈硬化プラーク増加の原因の一つとして、炎症性サイトカイン産生の増加が挙げられる。本研究では、新規の窒素非含有BPであるMPMBPの炎症抑制効果の有無を、TLR2リガンドが誘導する炎症性サイトカイン産生を指標に検討した。本研究費用の一部は、平成30年度学長裁量経費教育研究プロジェクト経費(学裁費B-1)を用いている。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0306

11 : 40 ~ 11 : 50

### 7. 口腔*Veillonella*の新規エネルギー代謝経路の探索

○眞島いづみ

(奥羽大・歯・口腔病態解析制御)

*Veillonella* 属細菌は偏性嫌気性グラム陰性球菌であり、口腔内の *Streptococcus mutans* に代表される口腔細菌が産生する「乳酸」を主栄養源として生育することから、抗う蝕作用が示唆されてきたが、その詳細や正確な代謝経路は明らかになっていない。

本発表では、*in silico* でのアプローチにより、口腔 *Veillonella* 全菌種のエネルギー代謝経路を網羅的に解析した結果及び、本属細菌とう蝕との関連について考察する。

研修コード1104 関連項目 (1) 1103 (2) 0901

14：10～14：20

## 8. 当科における耐性菌検出状況および分離菌の検出状況

○神林直大<sup>1</sup>、川崎カオル<sup>1</sup>、小嶋忠之<sup>1</sup>、金 秀樹<sup>1</sup>、高田 訓<sup>1</sup>、柴田由美子<sup>2</sup>  
(奥羽大・歯・口腔外科<sup>1</sup>、奥羽大・歯・附属病院<sup>2</sup>)

抗菌薬の乱用による有害事象の一つに薬剤耐性菌の増加が挙げられる。これは本邦のみならず国際的に問題視され、WHO(世界保健機関)でも協議されている。今回われわれは、当科で治療した化膿性炎患者から検出された分離菌種および抗菌薬の耐性菌検出状況を調査した。その結果、分離菌は *Streptococcus* 属、*Neisseria* 属、*Prevotella* 属、*Staphylococcus* 属、*Veillonella* 属、*Fusobacterium* 属、*Peptostreptococcus* 属の順に検出された。また、第3世代セファロスポリン系、マクロライド系およびニューキノロン系に耐性を持つ菌の検出率が高かった。

研修コード0103 関連項目 (1) 0502 (2) 1105

14：20～14：30

## 9. SCRPが拓いた基礎歯学研究者への道

○眞島いづみ

(奥羽大・歯・口腔病態解析制御)

Student Clinician Research Program(SCRP)日本代表選抜者大会は、全国の歯学部を代表する学生が、自ら設定した研究の成果を、英語によるポスタープレゼンテーションで競い合う、アカデミズムの集結である。

本発表では、発表者が SCRP 活動を通して体感した学業における効果や、基礎歯学研究者となる現在までに与えたその影響を紹介する。

研修コード0199 関連項目 (1) 1199 (2) 0399

14：30～14：40

## 10. 知的障がい者にユマニチュードを用いて口腔ケアを実施した1例

○泉田玉磨美<sup>1</sup>、入澤正晃<sup>2</sup>、鈴木海路<sup>2</sup>、福島和美<sup>2</sup>、山家尚仁<sup>2</sup>、北條健太郎<sup>2</sup>、  
小松泰典<sup>3</sup>、渡邊 崇<sup>2</sup>、鈴木史彦<sup>2</sup>、清野晃孝<sup>2,3</sup>、佐々木重夫<sup>2</sup>、杉田俊博<sup>2,3</sup>  
(奥羽大・歯・附属病院・看護科<sup>1</sup>、奥羽大・歯・附属病院・地域医療支援歯科<sup>2</sup>、  
奥羽大・大学院・総合診療歯科<sup>3</sup>)

高齢者施設に入所し、知的障がいを伴っている患者の歯科治療では、高齢者歯科と障がい者歯科の両方の要素を考慮する必要がある。心身の機能が低下し他者に依存せざるを得ない状況になっても「人間らしい」存在であり続けることを支える「ユマニチュード」は、哲学とその実践技術から成るケアメソッドである。

今回我々は「ユマニチュード」を用いて介護老人ホームに入所する知的障がい者の口腔ケアを経験したので報告する。

研修コード0806 関連項目 (1) 0107 (2) 0905



第68回奥羽大学歯学会予定  
日時：令和元年11月9日(土)

---

—歯学会学会委員—

福井和徳(成長発育歯)\*、金 秀樹(口腔外科)\*、宇佐美晶信(生体構造)\*、  
山崎信也(口腔外科)、島村和宏(成長発育歯)、菊井徹哉(歯科保存)、  
車田文雄(口腔衛生)、前田豊信(口腔機能分子)、古山 昭(口腔機能分子)、  
大橋明石(口腔衛生)

\*学会理事

---